

意見陳述

原告 高松 賢

原告の高松賢です。現在、私は妻と娘と息子の家族4人で臼杵市野津町で暮らしております。

私は埼玉県に生まれ育ち、埼玉県内の高校を卒業し、東京にある専門学校を卒業した後、民間の会社勤めなどを経て宇宙航空研究開発機構に勤めておりました。地域環境問題の講演会に参加したことをきっかけに、自給的な暮らしを中心とした農業をしてゆきたいと思うようになり、10年間勤めた宇宙航空研究開発機構を退職し、福島県内の農家で農業研修を受け、その後、栃木県茂木町で新規就農しました。

栃木では、耕さず、草や虫を敵とせず、農薬や化学肥料を用いない、トラクターなどの機械を使わず、鍬、鎌、スコップなど昔ながらの農具と身一つあればできる自然農というやり方で農業をしておりました。お米は自分で作った稲の苗を手植え、手刈り、天日干したものを主に自給分として作り、野菜は少量多品目で育て、10種類ほどの野菜をセットにして宅配便で送ったり、東京のレストランに出荷するなどして生計を立てていました。子どもたちも土に触れ、自然環境豊かなところでのびのびと育ち、このままこの場所で生きてゆくつもりでいました。

ある日、まともに立ってられないほどの大きな揺れが襲いました。それは、2011年3月11日の東日本大震災です。その地震の時、私は自分の家が見える畑におりまして、妻が子ども二人を連れて家の外に出てくるのが見えたため、この揺れで家が壊れたりしても子どもたちは大丈夫だと思い、少しだけ安心しました。最初の強い揺れが収まるのを待ってから、妻と子どもたちのいる家の前まで戻りました。その後もかなり大きな余震が何度も起き、これは大変なことになったと思いました。

この時、多分自分たちの住んでいる栃木が一番地震が強かったのではなく、東京のあたりか、もしくは東北の方がもっと強く揺れたのではないかと思いました。も

し東北がもっと強い地震に襲われたのであれば、福島原発が大丈夫なのかと頭をよぎりました。

確か地震の後、すぐに停電になったので、車でラジオを聞いて、何が起きているのか知ろうとしました。ラジオでは、地震が起きたことだけで、まだそれ以上の詳しいことはわからずにいました。しばらくしてから、津波が起こったことや福島の原発が危ないというようなニュースが流れました。

私の住んでいたところは、福島原発から100km強位しか離れていない所でしたので、チェルノブイリ原発事故のように原子炉が吹き飛び放射能が環境中に出てしまったら、このままこの場所にいる事は危ないのではないかと不安になりました。少しでも原発から離れたほうが良いのではないかと思い、福島原発から200km以上離れている実家のある埼玉に移動しました。埼玉にいる時に原発が爆発しました。爆発した映像をテレビのニュースで見たのは本当に衝撃的で、今でも恐ろしい映像が目に焼き付いています。原発が爆発したことで、風向きによっては放射能が埼玉までくるかもしれないと思うと、ここにいるのも安全であるかどうかがわからず、不安な思いでいました。その後、関東の野菜の一部から国の基準値を超える放射能を含んだ野菜が検出され、いくつかの地域の数品目の野菜が出荷停止になったとのニュースが流れました。私はこのニュースを見て、この場所ではもう農業ができなくなるかもしれないと思ったと同時に、野菜から放射性物質が検出されたという事は関東にも大量の放射能が降り注いでしまったことを知りました。そして、埼玉にいることも危ないのではないかと思い、妻と子どもたちと、距離的に遠いという理由で妻の姉のいる北海道に一時的に避難しました。北海道にいる時に、東京の水道水から放射性ヨウ素が検出されたというニュースが流れ、状況は悪くなる一方でした。まだ幼かった子どもたちの事が心配で、不安を抱えたまま栃木の家に戻る事は考えられなかったため、福島原発からの距離や、風向きを考え、西日本に移住することをそのときに決めました。

日本地図を見ますと、日本中どこにでも 原発があり、移住先を決めるのが難し

かったのですが、比較的どの原発からも少し距離のある岡山に移住しようと決めました。子どもの事は一番の心配でしたが、すぐにでもまた農業を再開したいという思いもあり、岡山への移住は原発事故直後の2011年4月下旬と、早い決断でした。移住後にわかったことですが、岡山で私たちの住んでいた周辺の畑はもともと田んぼで重粘土質のところが多い土地でした。事故直後に急いで決めたため、農地の状況まではよく考えていませんでした。そういうところを畑として使っていたので、水はけが悪く、土を耕さない自分のやり方では、野菜づくりが難しい土地でした。

そのため、自分のやり方で農業ができそうなよい土地を求めて、再度西日本で移住先を探し始めました。いろいろ探しましたが、その中でも大分の土が栃木の土と似ていて、野菜畑もたくさんあり、また自然環境豊かであることもあって、大分に移住することを決めました。2016年3月、5年住んだ岡山を後にして、ここ大分に移住し、6年目を迎えたところです。

福島原発事故から10年が過ぎました。この10年を振り返りますと、原発事故時に住んでいた栃木では自分たちと同じように移住を選択した人もいましたが、移住を考え、しかし、できずに不安なまま残った人もいました。それぞれに色々な事情を抱え、不安も抱えこの先の選択をしなければなりません。そして、せっかく築き上げた人と人のつながりが不本意に分断されてしまいました。今後そのような経験はもうしたくないですし、他の誰にも同じ思いをしてほしくないと思います。

福島原発事故が起こる前までは、どこでも気に入った土地に住み、田畑に立ち、そこで暮らしてゆくことが当たり前のようにできていました。しかし、いざ原発事故が起きると田畑の土や野菜も汚染され、農業ができなくなるかもしれませんし、人間が住み続けられるかどうかも分かりません。事故後、最初に移住した岡山では、福島県からだけでなく、関東各地から移住してきた人が沢山いました。岡山に関東からの自主避難者が多かったのは、私たち家族と同じ理由で福島原発以外の他の原

発からも比較的遠かったこと、新幹線が通っているため、関東方面からのアクセスがよかったことなどが挙げられると思います。岡山で出会った人たちは、地震や津波の影響で移住したわけではなく、みな原発事故の放射能を恐れてでした。原発が事故を起こせば、30km圏内だけに影響が出るわけではありません。実際、福島原発事故では関東に大量な放射能が来ました。そして、その放射能の環境への影響、人体への影響がこの先どのような形で出てくるか分かりません。原発事故による移住者の多い岡山では、2か所の病院で定期的に被災者検診が行われておりまして、私たちが岡山に住んでいたころは、血液検査や甲状腺のエコー検査を受けていました。ここ大分でも、定期的に検査して診て頂いています。原発事故から10年過ぎましたが、当時幼かった子どもたちが今後も健康でいられるか心配は消えません。

今年に入ってまた地震が増えているように思います。近年は地震以外にも豪雨など自然災害が多く、想像もつかない様な事が起こります。自然災害も大変ですが、自然災害は受け入れるしかありません。しかし、2011年3月11日の東日本大震災では、自然災害だけでなく、それがきっかけで原発事故が起きました。これは到底受け入れられるものではありません。原発事故が想定外という言葉で、仕方のない事にはできないと思いますし、想定外の事が起こりうる現在、原発を稼働することはあり得ません。

大分に住んで6年目になりますが、とても住み心地が良く、この先もずっとここで暮らして行きたいと思っています。

しかし、一方、大分からは、伊方原発が目と鼻の先にあるので、とても不安に思っています。ひとたび事故が起きれば、県境を超え、広範囲に放射能がばらまかれてしまう事は、福島原発事故を見れば明らかです。この大分でも、同じことが起こり得るのです。未来、いのち、健康を考えたら、原発を動かすことなどもってのほかです。これ以上日本で原発事故を起こさないためにも、まずは、伊方原発の再稼働を認めない司法の決定をお願いします。

以 上